

「経済入門」 まずはここから

「経済」と聞くと、「難しくて苦手」「よく分からない」などを感じる人もいるでしょう。ですが経済は、決して遠くの世界の話ではなく、みなさんの毎日の生活の中にあふれています。

例えば、自動販売機で昨日まで160円で売られていたジュースが今日は200円になっている、交流サイト（SNS）などで話題になった商品がお店で品薄になっている——。これらは「商品の値上げ」「需要と供給の変化」という経済の動きの一つなのです。みなさんが今日何を買って、どこへ出かけて、どう暮らしていくか。その選択や行動のほぼすべてに経済がかかわっています。

経済学には多くの分野がありますが、ここでは、最近大きなニュースになった「コメの値上がり」を題材に、ものの値段がどのようにして決まるのか、物価とは何か——などを扱います。まずはここから始めてみましょう。

コメの値段 1年で約2倍に

2024年夏ごろからコメの値段が徐々に上がり始め、1年で約2倍になりました。2025年に入って、値段がやや下がった時期がありましたが、いまだ高い状態が続いています。一時はスーパーの棚からコメが消えるなど、値段の高騰を含めた一連の混乱は、令和のコメ騒動とも呼ばれました。

◆「需要」と「供給」のバランス

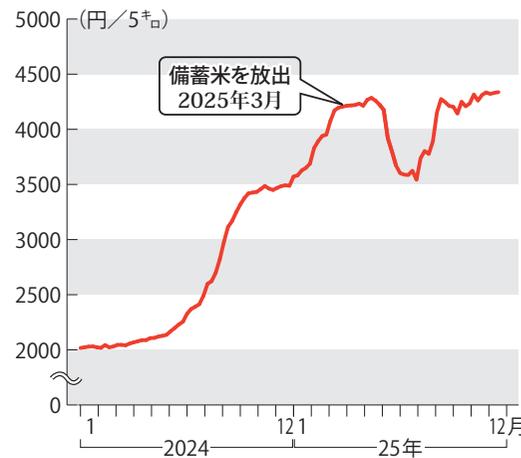
ものやサービスの値段は一般に、それを欲しがる人がどれくらいいるかという**需要**と、それを欲しがる人に提供できる量を表す**供給**のバランスで決まります。供給が需要を上回れば値段は下がり、逆に需要が供給を上回れば値段は上がるのが基本的な仕組みです。

コメの値上がりも、需要と供給のバランスが関係しています。コメは2024年7月ごろから足りなくなり始め、値段が上がりました。農林水産省は当時、「新米が出回る9月には不足が解消する」と説明していましたが、2025年5月にはコメ5kg当たりの平均価格が過去最高の4285円になりました。

◆ 40万ト超が不足 備蓄米を放出

農水省は2023年7月～2024年6月の主食

① スーパーで売られているコメの値段の推移



※KSP-SPがデータを提供する農林水産省の資料を基に作成

用のコメの需要を681万トと予想していましたが、実際はそれを上回る705万トでした。この他に、2023年産のコメは高温障害による品質の低下の影響で出回る量が減って661万トとなり、40万ト超が不足してしまいました。

このように、コメの需要が供給を上回り、需要と供給のバランスが崩れたことが、値上がりの大きな要因です。コメ不足を解消して値上がりを抑えるため、政府は**備蓄米**を市場に出すことを決めました。

「物価」って何だろう？

近年、新聞やテレビなどのニュースで「物価が上がっている」「物価高が続いている」という言葉をよく耳にするようになりました。

物価は、ものやサービス全体の値段の平均値を、一定の方法を使って算出したものです。5 コメや野菜などの食料品や、ガソリンや電気などの光熱費、宿泊費などのサービス料——。こうしたさまざまなものやサービスの値段の平均を見て、ある時点から物価が上がったのか、下がったのかを判断する指標です。10

物価の変動を測るものさしの一つとして例えば、総務省が毎月発表する**消費者物価指数**があるよ。



◆ 物価上昇に「良い」「悪い」がある？

15 物価は上がりすぎても下がりすぎても、さまざまな所に影響が出るため、ゆるやかに上昇するくらいが景気が上向くにはちょうどよいとされます。

ただ、「良い上昇」と「悪い上昇」があります。

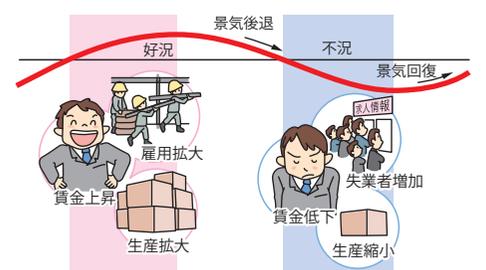
20 良い上昇とは、景気が良く、ものやサービスの需要が高まった結果、物価が上がることです。一方で悪い上昇は、円安やエネルギー資源の高騰などによってもものやサービスにかかる費用がかさんだ結果、物価が上がることです。この場合、消費者の負担が増すだけなので、良い上昇とは区別されています。25

◆ 物価と景気の関係は？

物価は経済が活発だと上がり、滞ると下がる傾向にあります。ものやサービスを売ってお金を得るお店や企業の立場から見ると、商品がたくさん売れば利益(もうけ)が出ます。もうかった分、働く人の給料が上がれば、人々はお金をたくさん使うようになります。こうして多くのお金が世の中を盛んに巡る状態を「景気が良い」といいます。この時、物価はゆるやかに上昇します。これを**インフレーション**といいます。

反対に、経済が滞って景気が悪くなると、人々は買い物を控えるようになります。企業はこの時、商品が売れ残らないよう、値下げをします。このように物価が下がる傾向を**デフレーション**といいます。デフレになると企業のもうけは減り、働く人の給料が減ることもあります。人々はさらに買い物を控え、企業は再び値下げせざるを得なくなります。こうなれば景気は悪くなる一方です。

2 景気の変動



STEP UP

値段を決めるのは難しい



買う側(消費者)の立場で考えると、普通は「より安く買いたい」と思うでしょう。一方、売る側(生産者、販売者)の立場で考えると、普通は「もうけを得るため、より高く売りたい」と思うでしょう。

前述のように、ものの値段は一般に、需要と供給のバランスで決まりますが、それ以外の要因でも値段は上がったり下がったりします。例えば、商品をつくるための原材料が値上がりした時、売る側はその分を値段に上乘せるか、値段は据え置いて、その分を働く人の給料を削るなどして調整するか——などと考えます。値上げをすると売れなくなる恐れがありますが、一方で働く人の給料を下げると生活に支障が出て、景気の悪化につながりかねません。

消費者、生産者、販売者、働く人——すべての立場の人が納得する値段にするのは、そう簡単なことではありません。